
ASMBUG ;

機能 :

ASMBUG は、TSP が入力プログラムを解釈するときの DEBUG スイッチをオンにします。DEBUG スイッチがオンになると、TSP は通常より多い情報を出力します。出力は一般のユーザにとっては意味のないものかも知れませんが、TSP のプログラマーやコンサルタントにとっては有用な情報となるものです。

使用法:

問題が生じたと思われる個所の直前に置きます。DEBUG スイッチは NOABUG コマンドまで有効です。スイッチがオンにされると、各コマンドや方程式についての内部情報が詳細に出力されます。

プログラムの実行時のデバッグのアウトプットは、DEBUG コマンドを参照して下さい。

例:

```
ASMBUG ;  
FRML EQ Y = A**(EXP(GAMMA*X)) + B*LOG(HSQ*Z)) ;  
NOABUG;
```

この例では、方程式を解釈する際の内部情報を出力します。

アウトプット:

ASMBUG は、DEBUG コマンド程ではないですが多くの内容を出力します。各入力行は INPT ルーティンで解釈されますが、その際の情報が出力されます。もし、GENR, SET, IF, FRML や IDENT コマンドが含まれる場合、FRML や PARSE ルーティンでの解釈時の情報についても出力されます。最終的にコマンドの内部的に解釈された形式が出力され、その内容が実行時のデータ領域に保存されます。